

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900303		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム美鈴ヶ丘		
所在地	福岡県小郡市三沢5430 (電話) 0942-75-3903		
自己評価作成日	平成 25 年 3 月 5 日	評価結果確定日	平成 25 年 5 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同一敷地内にケアハウス、デイサービスが併設されています。広大な敷地内には、季節を感じられる花や草木があり、自然に恵まれた環境にあります。ゆとりある広々とした室内は、プライバシーが守られ安心して生活できる居住空間が確保されています。ホームで飼っている犬をはじめ、鯉や金魚が入居者の方を癒してくれています。職員一同、入居者の皆様が家庭的な雰囲気の中、穏やかに暮らしていける環境作りに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 25 年 4 月 5 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成15年にクリニックを改装した白亜作りの鉄筋2階建てで、どっしりとした事業所である。リビングや各々の居室が広めで充実している。法人代表者は30数年来「福祉の里づくり」を目標にしており、福祉施設の必要性を認識しての事業所設立である。運営理念として、利用者の人格を尊重し楽しく暮らしていけるよう支援すること、地域住民との交流を支援すること、自己研鑽に努め知識技能の習得向上に励む等全職員一丸となって頑張っている。利用者の回想をもとに想い出の場所を訪ねる等、利用者と職員が設定した「共感の日」があり、穏やかな日常生活がうかがえる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 人格尊重 2. 礼節と尊敬の念を持ち接する 3. 地域住民との交流支援 4. 自己研鑽 以上の運営理念を管理者、職員は念頭に置いて業務を行っている。	「人格尊重・尊厳・地域密着・自己研鑽」の設立時の理念を、運営管理者・全職員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物に招待を受けたり、事業所で行う行事に地域の方に来て頂き交流している。又、法人内事業所の行事にも積極的に参加し、そこの利用者の方との交流も図っている。	地域の夏祭りや敬老会に参加している。事業所主催の夏・秋まつりや運動会・餅つき大会等のイベントには地域の人たちも呼びかけ、交流している。また、近隣の中学校・専門学校の職場体験を受け入れるなどの交流もある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の代表者に認知症介護の実践状況、支援方法をその都度報告している。見学者等には、必要に応じて、介護保険の説明や相談もお受けしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居代表者、地域代表者、行政代表者らにサービスの状況等の報告をし、それに対する意見、提案を受け、より良いサービスが提供できるように活かしている。外部評価についても評価内容や実践状況を報告している。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。避難訓練時に近隣住宅へのチラシ配布による参加の呼びかけや、地域ボランティアの紹介等、会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の際や、必要に応じて電話連絡や市役所に伺い、その都度事業所の状況、サービスの取り組みなどを伝えている。	日頃から、運営に対する報告や相談は理事長が行政へ働きかけている。また、事業所も取り組みや介護保険の手続き等、行政窓口や電話で実情報告する機会を持ち、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員ミーティングの中で勉強会を行い、全職員に周知徹底を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関にセンサーを設置し、日中は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守り付き添い等を行っている。身体拘束に関するマニュアルがあり、見守り方法の徹底・リスク対応等、意識向上に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。全職員が内・外研修に参加し、テキストやパンフレット、研修記録、報告書等がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会を行い、虐待防止の徹底に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、活用できるように知識や理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方が1名入居されている。	権利擁護に関する制度について、利用者・家族等に契約時に説明しており、必要に応じて、制度を活用できるよう支援している。職員は制度について内・外部研修に参加し、テキストやパンフレット、研修記録、報告書等がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとに、ご本人及びご家族に十分な説明を行い、理解と納得を得た上で契約、解約、改定等の手続きを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者にはその都度、生活の中で意見、要望を伺っている。ご家族には面会時や家族懇談会の時に意見、要望を伺い、運営に反映している。	利用者・家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会がある。利用者の願いや要望等は記録に残し、解決につなげている。家族には面会時にも声をかけ、話しやすいような環境づくりに努めている。家族会は年2回、5月と10月に開催しており、10月は秋祭りに合わせて開催している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングにて管理者、職員が意見交換する場を設けている。	全職員が自己評価に取り組み、ユニット長でまとめあげている。管理者は月1回のミーティングで意見交換の場を設けている。利用者へのケア方法、調理、条件整備、環境整備（一斉掃除）の日を作る等、運営に反映させている。異動や離職を最低限に抑えるよう努力している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員と意見交換する場を適宜設けて、職場環境、条件の整備をその都度行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢にこだわらず、個々の能力に目を向け、幅広い人材を採用している。採用後も能力が十分発揮できるようバックアップを行っている。	採用は法人本部と事業所も参加し行っている。福祉に対する思いを重視している。働く職員に、能力を発揮して自己実現の権利が保障されるよう、資格取得や研修の機会を積極的にバックアップしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人職員は、まず法人研修にて学んでもらっている。事業所内でも定期的に勉強会を実施し、職員への人権教育、啓発を行っている。	法人代表・全職員は、人権教育に関する内・外部研修に参加し、テキストやパンフレット、研修記録、報告書等がある。全職員で人権に関する意識を共有し、利用者に対する人権の尊重や啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ずつのフロアミーティングと、月例ミーティングにて、入居者の処遇などに関する勉強会を行っている。 法人内外の研修にも積極的に参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の地域密着型サービスや施設との交流を行っており、処遇や事例などを検討している。小郡市三井地区介護保険研究会に出席し、同業者との交流を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを受け止め、思いを安心して表出できるように、初期の信頼関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの際、入居に至った経緯等を勘案し、不安な事、分からない事などあればその都度丁寧に対応し説明を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	サービスを導入する前に、本人、家族、関係 者にアセスメントをとり、本人が必要として いるサービスを見極めて提供している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	本人の力を発揮できる生活作りを支援させて 頂くことで、喜怒哀楽を共にしながら暮らす ことができている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	定期受診や個別の外泊外出は、ご家族にお願 いしている。 ご家族には気軽に行事にも参加して頂けるよ うに呼びかけを行っており、家族同士の交流 機会を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの行事や祭りなどに参加したり、馴染 みの人の面会にて今までの関係が途切れない ように努めている。	利用者が日常生活で馴染みにしていた店や理 美容室、墓参り等思い出の場所を把握し、家 族の協力を得ながらこれまでの関係を継続で きるように支援している。また、近隣の友人 にも訪ねてもらっている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を把握して、共に暮 らしを楽しめるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じてフォローし、相 談や支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、入居者と接する中で、一人ひとりの思いや希望、意向等を的確に把握できるように、表情や言動などを注意深く観察し、職員間で共有している。	日々の関わりや対話の中で、また意思疎通が困難な場合は、アイコンタクト・表情・言動から気持ちの把握に努めている。新たな情報・状態についても、職員間で話し合い記録するなどし、本人の思いの実現に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族、その他関係者から情報を得て把握に努めるとともに、入居後も日々の中での把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれ個別に生活記録を作成。又、職員間で申し送りを徹底し、現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、その人にとって必要な介護計画を作成し、「介護計画の実施と評価」を毎月ご家族へ送付している。	計画作成担当者が中心となり、本人、家族、介護職員等の意見が反映された利用者主体の計画書を作成している。計画書は3～6カ月に1回または利用者の状態変化や状況に応じて見直し、その都度家族への説明を行い、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、重要な事は申し送りノートに記入して職員間で情報を共有するようにしている。その情報をもとに介護計画の見直しや日々のケアに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の急な要望にも出来る範囲で柔軟なサービス提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方たちに月1回来訪して頂き、入居者の皆様にセラピーや会話等で交流して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、これまでのかかりつけ医の継続を支援している。基本的には、ご家族による受診をお願いしているため、ご家族へ毎月の状態を书面で報告したり、電話や面会時にも報告している。又、必要に応じてかかりつけ医に直接報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。	基本的には家族の介助による受診（通院）であるが、家族の介助が困難な場合や緊急時には職員が対応する場合もあり、利用開始前のかかりつけ医との関わり方や日頃の状況に至るまで、家族と密に情報交換を行い支援している。また、定期的な訪問診療や夜間往診の体制も整っており、家族も安心出来ている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年より看護師を配置している。些細な変化等も看護師に相談し、助言、協力を得ている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に入院先に訪問し、主治医、相談員、家族と連絡を取ると共に本人が不安にならぬよう面会して、早期に退院出来るよう努め、退院後安心して生活が出来るように受け入れ体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。入居後は、状況に応じて、家族や主治医等と話し合いを行い、方針を共有している。必要に応じて、他施設への紹介も行っている。	重度化・終末期に向けた対応は、利用開始時に事業所としての対応指針を家族へ説明し、同意書をもっている。本人や家族の意向を大切にしながら、主治医と相談し、明文化された指針に沿って職員が一丸となって援助している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて、定期的に応急手当や初期対応などのマニュアルを準備しており、周知徹底を図っている。必要に応じ、見直しも行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間、夜間それぞれを想定した避難訓練を消防署立会いのもと近隣の方にも参加頂き実施している。また、訓練後には課題検討を行い、防災や災害時の対応について意識を高めている。敷地内のケアハウス入居者、職員との連携や通報システムの登録先として近隣住民の協力を得ている。	マニュアルが作成されており、年2回防災訓練（1回は消防署立ち会い）を実施している。地域住民への呼びかけも行っており、参加を得ている。職員は避難経路や消火器の使用法について把握しており、施設内の至るところに「避難順路」の矢印を掲示している。非常用食料・備品は隣接施設厨房倉庫に十分に備蓄している。また、当該ホームにも準備がある。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	日々、運営理念の一つでもある人格尊重を念頭に置いて支援を行っている。又、事業所内での勉強会を行うことで再確認し、初心を忘れないように心掛けている。	特に排泄に際してのプライバシーはもちろんのこと、家族を含め面会者との情報交換は他者に漏れる事がないように配慮している。職員は常日頃からお互いの行動や声かけを確認し合えるように意識するとともに、管理者も注意・点検を行い、気付きや反省を促すこともある。内部研修も行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせて寄り添いながら、ゆっくりとした口調で声掛けを行う事で信頼関係の構築に努めている。 何げない言葉やしぐさを観察して、希望や願いを汲み取る事ができるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣、希望を損なわないようにそれぞれのペースを尊重して支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、入居者本位で選別できるよう個別にて支援している。散髪は、月に1度移動理美容を利用して頂いている。個別に美容室に行かれる際は、ご家族に付き添いの協力を得ている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて、調理手伝い、テーブル拭き、盛りつけ、お盆拭き等をお願いしている。普段とは違った食事を楽しんで頂くために、バイキング形式にしたり、出前や弁当をとったり、ご家族と一緒に外食に出掛けることもある。	職員と利用者は同じテーブルで同じ物を食べている。味付け等を確かめ合い、楽しい雰囲気の中で食事している。季節感を味わえる一品を添えたり、嗜好や栄養バランス、食事形態にも配慮している。利用者が職員と一緒に皮をむく、野菜を切る、盛り付け、配膳等の支度や片付け等を行うことで自立支援につなげている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が必要な栄養量を計算したメニューを基本に調理し、個別に食事形態、量などを調整して提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、毎食後口腔ケアの声掛けや見守り、一部介助を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録をとることで、排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら声掛け誘導を行っている。	トイレ付の個室もあり、職員への意志表示をしやすい。職員は、排泄サインを把握のうえ、定時のトイレ誘導を行ったり、立位困難な方に対してもできる限りトイレ排泄の自立支援を行っている。紙パンツ等も軽いものへの変更を前向きに行い家族から喜ばれている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して記録している。便秘がちな方に関しては、ヨーグルトなどの乳製品を摂取して頂いている。かかりつけの病院から処方された下剤はその都度調整し、坐薬は看護師が挿肛している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴準備を行い、入居者一人ひとりが、ゆっくりとスムーズに入浴できるように、声掛けのタイミングなどをその都度工夫しながら行っている。	1・2階のユニットごとに大・小2つの浴室が設置されており、利用者の希望やこれまでの生活習慣に応じた入浴と清潔の保持が確保できるように配慮している。個浴を行い、ゆず・菖蒲湯を用意する等楽しい工夫をしている。入浴拒否がある方には無理強いをせず、時間をずらしたり、声かけの言葉を工夫したりしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の過ごし方は、入居者本位を心掛けており、自然なリズムで安眠や休息がとれるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、誤薬防止に努めている。服用する薬の副作用がある方については、主治医と家族に報告し、調整して頂いている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の能力に応じて、本人本意の役割を生活の中で見つけていくよう努め実践している。本人の性格、嗜好、生活歴も十分に考慮している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広大な敷地を有している為、敷地内の散策は自由に行えるようになってきている。外出については、定期的なドライブDAYで普段なら行く事ができない場所へお連れするように努めている。個別の外出については、一人ひとりの希望に忠実に応えることは出来ないが、ご家族に協力をいただき、外出支援を進めている。	広い敷地内での散歩を日常的に支援するほか、利用者や家族からの聞き取りにより、普段行けない所や季節感を味わえる場所、外食、買い物等外出の支援を行っている。また、利用者個別の要望に、「共感の日」を設け2週間に1回、利用者の思い出の場所へドライブしたり、カラオケや図書館等、担当職員の支援日を設け、出掛ける機会を作っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、入居前にご家族と相談し、なるべく希望に沿う方法をとっている。入居者個々の状態に合わせてお金を使うことへの援助を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ、電話や手紙のやり取り等は自由に行っていたりしており、必要に応じて介助している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある広い共用空間内は、入居者が安心して過ごせるように清潔感と明るさを感じていただけるようにしている。入居者自身の書道やぬり絵などを掲示してなじみの空間作りにも努めている。	共用空間は、季節感や家庭的な雰囲気が味わえる。照明も穏やかな色合いで落ち着き、職員の声やテレビの音量も調整されていて居心地が良い。光の強さはカーテンで配慮されている。トイレも数か所あり車椅子でも行きやすい。職員と利用者の共同作品・小物等を展示しており、家族からも喜ばれている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の関係を考慮して席順などを配慮している。必要に応じて、ソファや椅子を移動させたり向きを変える等で対応している。玄関外のベンチで日光浴等して過ごされることもある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い入れの強い家具や道具を持参して頂き、生活感あふれるプライバシー空間作りを支援している。	居室は洋室と和室があり、特に和室は我が家を思わせる様な設計になっている。タンス、テーブル、ソファ等馴染みの品物や家族写真、仏壇、冷蔵庫、テレビ、固定電話を引く等、それぞれが好みのものを活かして居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元はすべてフラットという設計ではない為、段差がある所もあり、手摺りを設置している。手摺りの追加や位置の変更は必要に応じて対応している。浴槽はまたいで入るタイプをあえて設置している。安全に入る為に手摺りやすべり止めマットを使用したり浴槽の両端はボードを被せている為、腰掛けながら跨いで入ることもできる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 人格尊重 2. 礼節と尊敬の念を持ち接する 3. 地域住民との交流支援 4. 自己研鑽 以上の運営理念を管理者、職員は念頭に置いて業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物に招待を受けたり、事業所で行う行事に地域の方に来て頂き交流している。又、法人内事業所の行事にも積極的に参加し、そこの利用者の方との交流も図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の代表者に認知症介護の実践状況、支援方法をその都度報告している。見学者等には、必要に応じて、介護保険の説明や相談もお受けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、入居代表者、地域代表者、行政代表者らにサービスの状況等の報告をし、それに対する意見、提案を受け、より良いサービスが提供できるように活かしている。外部評価についても評価内容や実践状況を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の際や、必要に応じて電話連絡や市役所に伺い、その都度事業所の状況、サービスの取り組みなどを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行い、全職員が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会を行い、虐待防止の徹底に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修にて、学ぶ機会を設けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとに、ご本人及びご家族に十分な説明を行い、理解と納得を得た上で契約、解約、改定等の手続きを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者にはその都度、生活の中で意見、要望を伺っている。ご家族には面会時や家族懇談会の時に意見、要望を伺い、運営に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、管理者を含めた会議があり、そこで職員は管理者に意見や提案を伝えている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員が意見交換する場を適宜設けて、職場環境、条件の整備をその都度行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>性別や年齢に拘らずに、個々の能力に目をむけ幅広い人材を採用している。 採用後も能力が最大限に活かせるようバックアップを行っている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>新人職員は、まず法人研修にて学んでもらっている。事業所内でも定期的に勉強会を実施し、職員への人権教育、啓発を行っている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回ずつのフロアミーティングと、月例ミーティングにて、入居者の処遇などに関する勉強会を行っている。 法人内外の研修にも積極的に参加している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の地域密着型サービスや施設との交流を行っており、処遇や事例などを検討している。小郡市三井地区介護保険研究会に出席し、同業者との交流を図っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の気持ちを受け止め、思いを安心して表出できるように、初期の信頼関係作りに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>インテークの際、入居に至った経緯等を勘案し、不安な事、分からない事などあればその都度丁寧に対応し説明を行っている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、本人、家族、関係者にアセスメントをとり、本人が必要としているサービスを見極めて提供している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗いなどを一緒に行い、家族のように寄り添うケアを心がけている。また、共感の日を設け、当日は本人が望むことを職員が一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や個別の外泊外出は、ご家族にお願いしている。 ご家族には気軽に行事にも参加して頂けるように呼びかけを行っており、家族同士の交流機会を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋や、思い出の場所へ、共感の日に出かけている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションでの座る位置などに気を配り、孤立しないように気をつけている。 また、利用者間の架け橋になるよう心がけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退去される際は、新しい入居先へ情報提供を行い、新しい生活での変化を最小限に留める努力をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、入居者と接する中で、一人ひとりの思いや希望、意向等を的確に把握できるように、表情や言動などを注意深く観察し、職員間で共有している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から、本人の生まれたときから現在までの生活を聞き取り、また、本人や家族と情報交換を密に行い把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化や、また、職員が気付いた事は、個別記録や申し送りノートに記入し職員全員で情報を共有し把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ミーティングで各入居者のケアについて話し合いを行い、見直しや変更をしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、重要な事は申し送りノートに記入して職員間で情報を共有するようにしている。その情報をもとに介護計画の見直しや日々のケアに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊と、その際の食事の提供。車イス車輛での外出など、必要に応じて柔軟なサービスに取り組んでいる。 また、外出行事の際には、職員の出勤人数を増やすなどの調整をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	共感の日に、近くのケーキ屋に行ったり、地域の理髪店での散髪や、小都市の図書館へ本を借りに行ったりと、地域資源を活用している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を一番にかかりつけ医を決めている。また、かかりつけ医との連携も密に行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の些細な変化でも看護師に相談・報告を行っている。また、看護師に医療面での意見を聞いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中もソーシャルワーカーに状態を聞いたり、見舞いの際に看護師やリハビリスタッフから話を聞き、本人と会って安心して頂けるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。入居後は、状況に応じて、家族や主治医等と話し合いを行い、方針を共有している。必要に応じて、他施設への紹介も行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて、定期的に応急手当や初期対応などのマニュアルを整備しており、周知徹底を図っている。必要に応じ、見直しも行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間、夜間それぞれを想定した避難訓練を消防署立会いのもと近隣の方にも参加頂き実施している。また、訓練後には課題検討を行い、防災や災害時の対応について意識を高めている。敷地内のケアハウス入居者、職員との連携や通報システムの登録先として近隣住民の協力を得ている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についてはミーティングなどで話し合い、意見交換を行い気をつけている。また、入居者の尊厳と人格の尊重に配慮して、礼節を欠くことのない様に注意を払って対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方のペースを大切に、その方の表情や態度を見ながら、その方の意見や希望を汲み取るように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣、希望を損ねないようにそれぞれのペースを尊重して支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が着たい服と一緒に職員が選んだり、理美容など希望の店や施設に訪問される業者などをお願いし、その人らしいみだしなみやおしゃれを支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をし、後片付けなども行っている。また、BGMを流す等の雰囲気作りも行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算をしたメニューで、それぞれに合わせた食事形態で提供し、食器などもその方が食べやすいものに変えて、自力摂取出来る様にしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助と、声掛けを行っている。また、歯科往診時に検診も受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して、その方の排泄パターンを掴み、その方の排泄ペースに合わせて介助している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトなど飲んでいただきながら、軽い運動や腹部マッサージで排便を促している。それでも出ない時は下剤にて対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	2～3日に1回のペースで定期的に入浴して頂き、本人の希望されたときはその都度ゆっくり入浴して頂いている。また、入浴中のコミュニケーションも大切にしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体状況に合わせて、昼寝の時間を作り、ゆっくりと休んで頂いている。また、夜間に不眠の訴えがある場合は、ゆっくりと話を聞き、安心して休んで頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、服薬支援においては間違いないよう二重にチェックし、服薬を支援している。また、症状に変化がある際は担当医に伝えている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お調子が得意な方には、誕生日に披露していただいたり、ビールが好きな方は、ホームバーへお連れしたりと、それぞれに合った個別の支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は現在出来ていないが、散歩や買い物には出掛けている。また、共感の日にその方の思い出の場所や行きたい所へ一緒に出かけている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、希望される入居者には受診時、外出時、買い物の支払い等、自分で支払いをして頂き、職員が見守りを行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を置いてる方については、自由に電話して頂いたり、取次ぎをしている。また、手紙についてもスムーズにやり取りが出来るようにフォローしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、テレビを囲みソファを配置し、自由にくつろげる空間作りを行っている。また、リビングや食堂には季節に合わせたディスプレイを行い、四季を感じて頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、入居者の雰囲気やレクリエーションなどによって、その都度配置を自由に変えている。また、少人数で過ごせるスペースを設ける時もある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを持って来られたり、家具などの配置も自由にして頂き、特に制限無く本人が使いやすいようにして頂いている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元はすべてフラットという設計ではない為、段差がある所もあり、手摺りを設置している。手摺りの追加や位置の変更は必要に応じて対応している。浴槽はまたいで入るタイプをあえて設置している。安全に入る為に手摺りやすべり止めマットを使用したり浴槽の両端はボードを被せている為、腰掛けながら跨いで入ることもできる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない